

史跡広島城跡発掘調査出土遺物（令和6年度調査分）の概要について

1 整理結果の概要

今後の史跡広島城跡内の発掘調査に係る瓦の取扱方針を決定するための基礎データを得ることを目的に、令和6年度の発掘調査で出土した瓦について整理作業を実施した。

第1表 精査瓦及びその他瓦別の集計

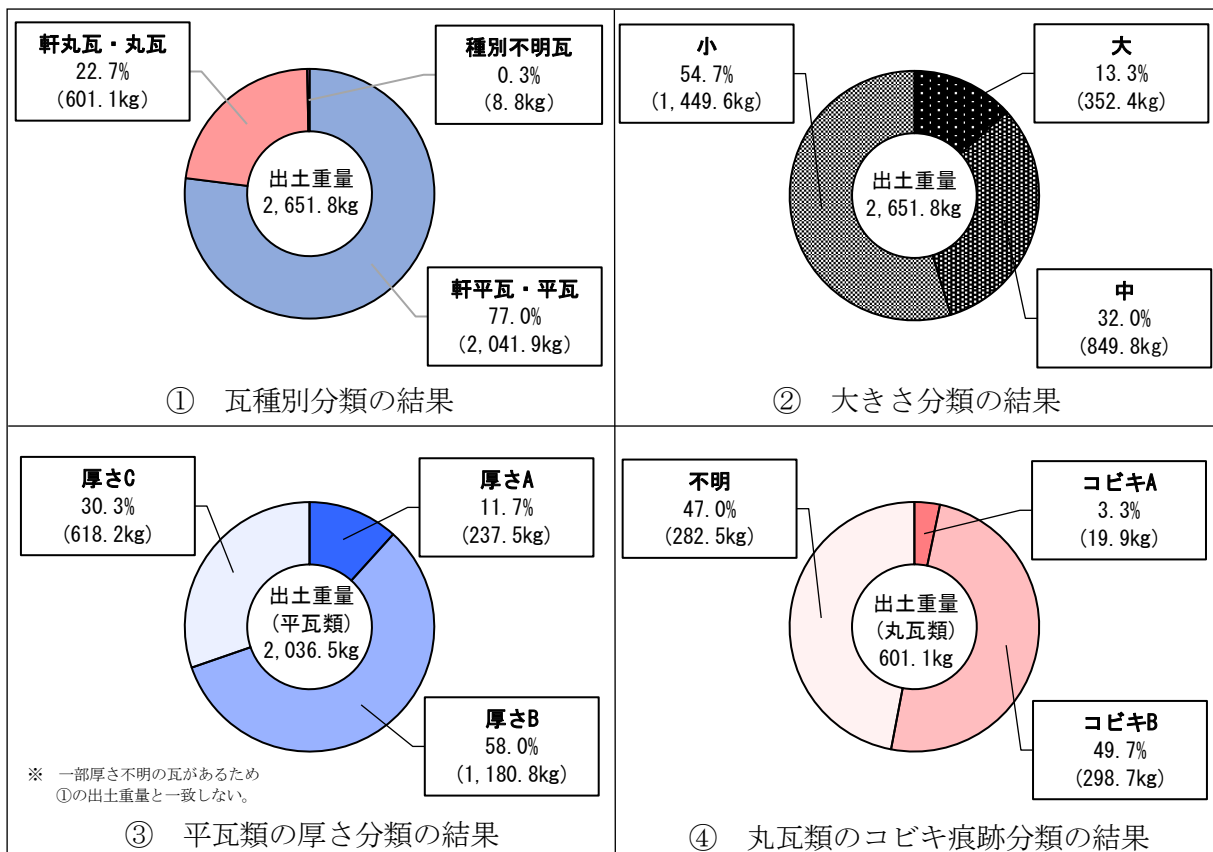
| 区分 | 点数 | 重量 | 重量比率 |
|----------------|---------|-----------|--------|
| 精査瓦（計測・観察可能な瓦） | 561点 | 166.4kg | 6.3% |
| その他瓦（計測等困難な破片） | 16,962点 | 2,485.4kg | 93.7% |
| 全体 | 17,523点 | 2,651.8kg | 100.0% |

第2表 地点別出土状況の集計

| 地点 | 掘削土量 | 点数 | 重量 | 重量比率 | 土量 1 m ³ あたり重量 |
|---------|----------------------|---------|-----------|--------|---------------------------|
| T 1 | 5.00 m ³ | 4,994点 | 696.7kg | 26.3% | 139.3 kg/m ³ |
| T 2 - 1 | 5.25 m ³ | 10,034点 | 1,664.0kg | 62.7% | 317.0 kg/m ³ |
| T 2 - 2 | 2.25 m ³ | 2,495点 | 291.1kg | 11.0% | 129.4 kg/m ³ |
| 全体 | 12.50 m ³ | 17,523点 | 2,651.8kg | 100.0% | 212.1 kg/m ³ |

2 項目別集計の結果

①瓦種別、②大きさ、③平瓦類の厚さ、④丸瓦類のコビキ痕跡*の観点から集計を行った。



* 丸瓦凹面に残る粘土塊からの粘土板の切り離し痕跡。糸切りで行ったコビキAと鉄線で行ったコビキBがある。

3 外見的特徴のある瓦の観察結果

(1) 軒平瓦について

平瓦類 13,937 点のうち軒平瓦は 142 点である。完形の瓦は皆無であり、文様等の全体像を把握できる瓦は僅かである。中心飾りと左右の文様を確認できる瓦が 25 点、左右の文様のみの瓦が 56 点、中心飾りのみの瓦が 7 点、文様が残存していない瓦が 54 点である。破片のため同范関係は類推できない。中心飾りには橘文、三葉文、花卉文、半菊文、小天文があり、左右の飾りは概ね唐草文で、一部に子葉文がある。

(2) 軒丸瓦について

丸瓦類 3,549 点のうち、軒丸瓦は 202 点である。文様を確認できる瓦が 83 点、珠部のみ残存する瓦が 119 点である。文様はすべて三巴文である。完形に近い軒丸瓦は 1 点のみであるが、これと大きさや文様等の同一性から同范関係を類推できる資料が 1 組ある。一方で全体像を把握できる瓦はわずかであり、他の瓦の同范関係は類推できない。

(3) 刻印等のある瓦について

「小天」刻印のある瓦を 17 点確認した。このうち 16 点が平瓦類、1 点のみが丸瓦類である。いずれも同様の色調や厚さの瓦であるが小破片であり、本来の大きさの推定は困難である。刻印のサイズにはある程度の規格性があり、長さ 1.5 cm～2.0 cm、幅 0.9 cm の範囲に施されている。

4 集計結果のまとめと所見

(1) 集計結果の概要

瓦の出土地点別集計の結果では、全体の 60%以上の瓦が天守台北東側隅部の T 2-1 から出土しており、北西隅部の T 1 と比較すると、掘削土量 1 m³当たりの瓦の出土重量は 2 倍以上である。瓦種別分類の結果では、平瓦類が全体の 75%以上を占めるのに対し、丸瓦類は 25%以下であり、種別不明の瓦は僅かである。大きさ分類の結果では、小の瓦が半数以上を占め、中の瓦が 30%程度、大の瓦が 10%強である。平瓦類の厚さ分類の結果では、厚さ B が半数以上を占めるのに対し、厚さ C が 30%程度、大型の建物に使用されたと考えられる厚さ A が 10%強である。丸瓦類のコビキ痕跡分類の結果では、概ね半数がコビキ痕跡不明だが、残り半数未満をコビキ B が占め、コビキ A は僅かである。個々の瓦の外見的観察の結果では、銀灰色の光沢を持つ比較的新しい瓦を多数確認した。また瓦当部を持つ瓦や鬼瓦などの飾り瓦はごく僅かしかなく一方、棧瓦や板塀瓦など天守には用いられない瓦も確認された。

(2) 所見

以上の結果から、令和 6 年度の出土瓦は、戦後の復旧作業に当たり広島城跡内に存在していた様々な由来の建物に葺かれていた瓦が結果的に集積されたものであり、倒壊時の周辺建物の内容が反映されたものではないと考えられる。瓦の出土量は地点によっても偏りがあり、城跡内の他の地点でも窪地や低平な箇所では、同様に瓦が集積されている可能性も考えられる。また、平瓦と丸瓦の出土比率に大きな偏りがあることから、密に敷きならすために立体的な丸瓦類を選択除外するといった、人為的な選別作業もうかがわれる。これに加え、効率的な敷きならしのため、瓦を意図的に破砕する行為が行われた結果、集計に示すような細片化が生じた可能性がある。

なお、瓦当文様の同范関係の推定や比較検討のための集成には、残存率の高い資料が必要である。今後の調査で得られる資料により、今回の結果の検証を行うこととする。

5 令和8年度以降の発掘調査における瓦の取扱い（案）

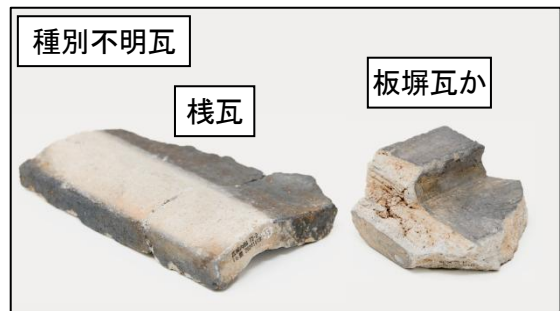
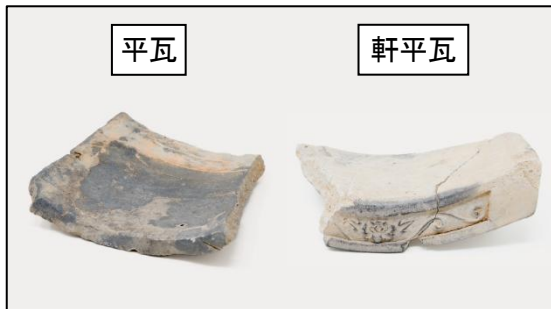
- (1) 出土地点ごとの出土傾向を把握するため、定量的なサンプリングを行う。(0.5m四方の該当層中の遺物全量取上げ等)
- (2) 文様分類や同范関係の検討に資する「精査瓦」については、これまでどおり積極的な取上げを行う。

1 精査瓦及びその他瓦の例

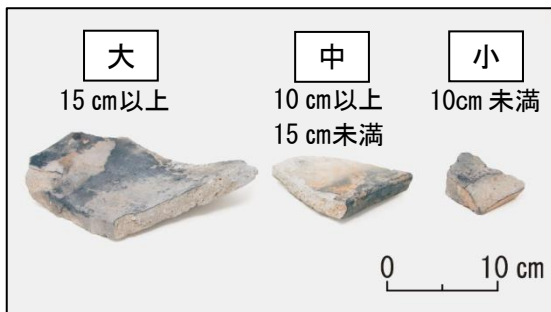
(参考資料)



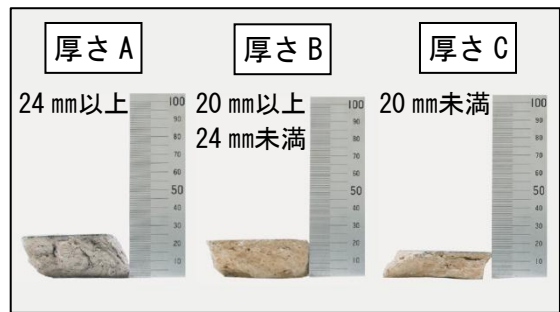
2 瓦種別分類の例



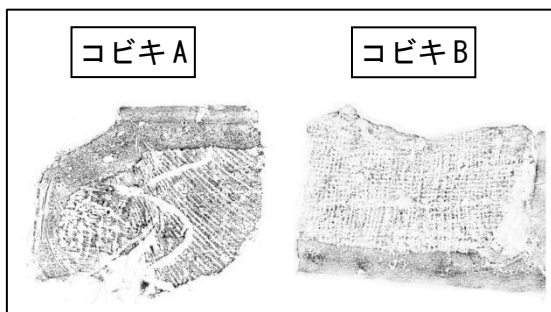
3 大きさ分類の例



4 平瓦の厚さ分類の例



5 丸瓦類のコビキ痕跡分類の例



6 その他参考 「小天」刻印のある瓦

